

## 第20回田子町県境不法投棄原状回復調査協議会 議事要旨

- 日時及び場所 平成25年11月8日(金) 16:00～16:50 公民館会議室
- 出席者 野田英彦委員長、中村忠充副委員長、澤口博二委員、宇藤安貴子委員、  
畠山勉委員、尾形憲男委員、宮村尚哉委員、熊谷和広委員、畠山嘉昭委員、  
一ノ渡尚武委員、中村康孝委員、新井田文雄委員  
計12名  
田子町：山本町長、中澤室長、加藤環境教育担当、中村主事 4名  
傍聴等：8名(青森県1、報道4、町民3)

### ■ 次 第

---

- 1 開会
- 2 町長挨拶
- 3 案件

#### (1) 報告事項

- ①両県の撤去状況(資料1)
- ②環境再生計画自然林造成について(資料2)
- ③環境再生計画地域振興について

#### (2) その他

- 4 閉会

### ■ 議事要旨

---

#### (1) 報告事項

- ①青森・岩手両県の廃棄物撤去実績を報告

##### 【青森県】

- ・11月初旬に全量撤去予定だったが汚染土壌の搬出先等の問題もありずれ込む。  
⇒少なくとも年度内には全量撤去予定。
- ・今後現場の地下水に含まれる1,4-ジオキサンを約8年かけて浄化する。

##### 【岩手県】

- ・廃棄物の掘削は終了し、搬出が終了していない。
- ・今後現場の地下水に含まれる1,4-ジオキサンを約4年かけて浄化する。

##### 【両県】

- ・地下水の浄化の評価については2、3年後に行われる。そこで具体的な説明がある。

- ②環境再生計画自然林造成について

##### ○全体の流れ

- ・昔の自然に戻すという趣旨のもと自然林造成がある
- ・平成21～23年度の3年間で町有林等から35,000本のポット苗を作成。  
⇒去年青森県に譲渡済み。  
⇒この苗を来年度から植樹予定。
- ・全量撤去後の地盤が固すぎるため50cm程度の客土を施す予定。

##### ○植栽事業について(2ヵ年)

- ・平成26年6月ころ田子町住民をはじめとする県民100人くらいで植樹際をする(県検討)  
⇒特に小学生、中学生に参加してもらいたい。

- ・費用の捻出の解決策として「企業の森づくり活動」による森林整備  
⇒企業がスポンサーとなり植栽費用や管理費用を出してもらいながら植栽を行う。(5年間)

#### ○植栽の管理について

- ・自然配植技術が産廃廃棄物現場跡地にはふさわしいのではないか  
⇒八戸森林組合が提案した植栽手法のひとつ  
⇒自然に任せた管理を行うので手間がかからずに田子町にあるような自然林を形成できる。

#### ○課題

- ・植栽や管理事業については地元には三八森林組合があるので八戸森林組合とともに三八森林組合とも共同で行いたい
- ・「企業の森づくり活動」の主体は県であり、町では募集しない
- ・林業再生協議会も受け皿になって植栽や管理の際は町の業者を斡旋して、町全体でお金が回るようにしたい(町長が県に対してなんらかのアプローチをする)

#### ③環境再生計画地域振興について

- ・東急建設が実施予定だったバイオマス発電を断念  
⇒発酵するタンクを設置できない(タンク固定用の杭は地下水の浄化の点からできない)
- ・県は地域振興に係わる別の事業を再募集する予定、時期は未定。  
⇒産廃現場跡地で事業ができるよう町から県に情報を提供するとともに、新たな事業の再募集については常々県と連携していきたい
- ・少なくとも地下水の浄化が終了するまでは産廃跡地を田子町で買収することはない  
⇒今後も県が所有し、関与して見守ってもらいたい

#### (2) その他

- ・この事案を忘れないように今後の町の活動については協議会の委員の方々と話し合っていていきたい。(ワーキンググループ会議開催)
- ・町でもタイムスケジュールを組んで行く必要がある。

(事務連絡等は省略)